

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点

地域や関係諸機関との積極的な連携・協力が行われている実践事例

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

沖縄県那覇市

○学校名

那覇市立若狭小学校

○学校のURL

<http://www.nahaken-okn.ed.jp/wakas-es/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】 12学級 【特別支援学級】 1学級 【合計】 13学級

○児童生徒数

【全児童数】 370人（平成24年11月1日現在）
（内訳：1年生65人、2年生54人、3年生63人、4年生55人、
5年生74人、6年生59人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校目標】 ○豊かな心を持ちたくましい子
○よく考え進んで学ぶ子
○ふるさとを愛し世界に目をむける子
【人権教育の目標】（1）人権尊重の精神を育成する
（2）いじめ、児童虐待を始めとする様々な人間関係についての
理解と認識を深める

○人権教育にかかる取組の全体概要

○毎月第1水曜日を「人権の日」と位置づけ毎月のテーマに則した校内放送
○毎月のテーマに則した掲示（作文・感想文）図書室に人権コーナーの設置
○「いじめについて」のアンケートを毎月実施
○児童会の生活委員会を中心に活動 人権教室の実施（人権擁護委員会と連携）
○教育相談の充実・教育支援委員の活用・関係諸機関との連携・校内研修の実施

3. 特色ある実践事例の内容

○地域や関係諸機関との積極的な連携・協力が行われている実践事例
（取組のねらい、目的）
・生命や人権を尊重する心を育み、一人一人のよさや可能性を伸ばす児童の育成。
（取組を始めたきっかけ）

- ・ 学校教育全体を通して、子どもの豊かな人間性を育成することは、本校の学校教育目標を具現化する一方策である。人権教育の推進は「互いに認め合い、共に生きる子ども」を育成する重要な柱である。本校区内には、対馬丸記念館や対馬丸記念碑があり地域の方々には人権擁護委員会に所属している方や数多くのボランティアの方々に恵まれ、日頃から学校を支えている。このことから、地域人材活用として、積極的に教育活動に取り入れている。

(取組の内容)

① 平和集会で命の尊さや人権尊重の精神を育成（6月）

- ・ 毎年6年生が中心となり「小桜の塔」を参拝し、命の尊さについて学習している。全児童で平和集会を行い、学級単位で千羽鶴を折り、6年生が代表し、対馬丸戦没者の慰霊碑「小桜の塔」を清掃・参拝している。



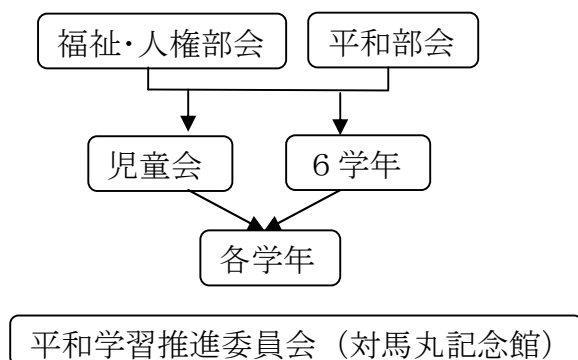
② 人権教室の実施（11月）

- ・ 那覇地方法務局：人権擁護委員の先生方を招き、授業参観日と連動し児童だけでなく保護者にも人権の授業を参観してもらった。親子で人権について話し合う機会にしている。6名の人権委員の先生に公開授業をしてもらっている。

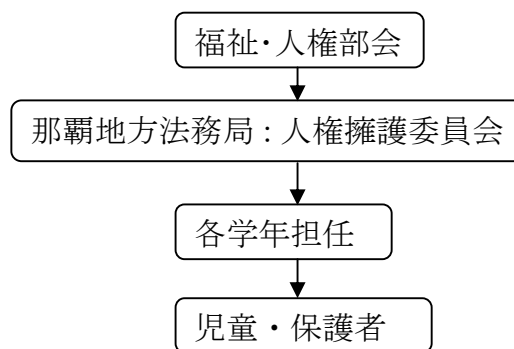
(6年) 命の尊さ 「心臓病のS君」 	(5年) 違いを認める 「りょうたの夏」 	(4年) いじめ 「子どもの人権」 
(3年) いじめ 「わたしの妹」 	(2年) 心のコントロール 「わたしの手」 	(1年) 「ともだちの気持ちをかんがえよう」 

(取組の主体や実施体制)

① 平和集会



② 人権教室



(取組の頻度) ① 平和集会→6月の平和月間を中心に、学芸会の劇等に繋げている。

② 人権教室→公開授業は11月に授業参観備日に実施。(毎月人権の日設定)

(取組を実現するにあたって課題となったこと、及びそれに対して講じた工夫)

○平和集会は、6年生が中心になって会を進めているため、取組時間の確保が厳しい。→各学年に内容をおろして協力してもらった。

○人権教室は、人権委員の先生方と事前打ち合わせの時間が取れない。→人権担当が電話連絡を密に行い、事前の準備や題材について各担任とのパイプ役となる。

4. 実践事例の実績、実施による効果

(取組の実績)

「小桜の塔」参拝や平和集会は、伝統行事として年間計画に設定されている。

① 人権擁護委員の活用は、以前から実施しており、授業参観日と設定したのは昨年度からである。

(取組が効果を上げた実際の事例)

○担任以外の方が、人権の授業に加わることで、児童、保護者が緊張感を持って授業に臨むことができた。そのため、人権に対する意識向上に繋がっている。

(取組の実施から得られた知見・経験により改善を図った事項)

○人権の意義や人権感覚を身につける機会となった。(学年相応の題材を活用)

○対馬丸の体験者の話を聞くことや、対馬丸記念館の事業に参加することにより、地域と連携した平和教育の充実につながった。

(例)・対馬丸合唱団への参加

- ・学芸会で「対馬丸」の劇を取り入れた。
- ・対馬丸記念事業「対馬丸組踊り」に参加
- ・「小桜の塔」慰霊祭に参加

5. 実践事例についての評価

(取組についての評価、及びそう評価する理由)

○取組についての評価

- ・身近な人権教育に関する題材が活用でき、地域と共に命の尊さや人権尊重の大切さを子ども達が直に感じ取れる取組である。

(人権教室の児童感想)

6年「命の大切さについて」

○命は、一つしかないお金で買えないほど大事なものです。私は、親からもらった命を決して無駄にしたくないです。ぼくは、人の命を取り合うこともなく、平等でおだやかな平和がいつか来る事を願っています。みんなが笑って暮らせるということです。

(保護者や地域住民からの反応)

○平和集会や人権教室については、授業参観日とタイアップして、児童の活動が見られて大変良かったとの声が多い。(アンケートより)

(現在、実施にあたって課題と感じていること)

- 実践活動の計画実施にあたって、全学年で公平に取り組めるよう企画・運営で検討が必要である。
- 人権擁護委員会の先生方との打ち合わせ時間の確保が難しい。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

那覇市立若狭小学校

生命や人権を尊重する心の育成のために、学校と地域や関係諸機関との連携を大切にしてきた実践の中で、特に地域人材の教育活動への積極的な活用と人権意識を高めるための環境づくりの工夫に特色が認められる事例である。

毎月「人権の日」を位置づけることで、様々な人権について考える機会が保障され、その内容に伴って工夫された校内放送や声かけ、掲示物や図書館のコーナーなどの環境は、日常的に人権を意識していくことにつながっている。また、伝統的に行われている「平和集会」や「体験者からの聞き取り」、「人権教室」での授業などに地域人材を活用することや授業参観と連動して保護者と一緒に考える機会を設けたことは、学校が家庭・地域と共に人権尊重の大切さを考えることにつながっている。